

米国 生産者物価コアは今後一段と鈍化する公算(06年12月生産者物価)

発表日：2007年1月17日(水)

～これまでの中間財の下落によって2007年7月まで最終財は鈍化傾向を辿る公算～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	最終財		生産者物価 (Producer Price Indexes)						原材料		WTI
	コア	コア	コア	エネルギー	中間財	コア	コア	コア	コア		
06/01	+0.3	(+5.6)	+0.4	(+1.3)	+0.1	+1.0	+0.9	▲0.8	▲0.2	65.3	
06/02	▲1.2	(+3.9)	+0.3	(+1.7)	▲4.5	▲0.5	+0.3	▲8.1	+3.1	61.9	
06/03	+0.4	(+3.6)	+0.2	(+1.7)	+1.5	+0.2	+0.4	▲2.5	+1.3	63.0	
06/04	+0.9	(+4.1)	+0.1	(+1.5)	+4.0	+1.0	+0.6	+2.6	+5.3	70.2	
06/05	+0.1	(+4.5)	+0.3	(+1.5)	+0.8	+1.1	+1.1	+2.1	+9.2	71.0	
06/06	+0.6	(+4.9)	+0.1	(+1.7)	+1.2	+0.5	+0.7	▲2.8	▲0.8	71.0	
06/07	▲0.1	(+4.0)	▲0.6	(+0.8)	+0.7	+0.3	+0.5	+2.5	+1.3	74.4	
06/08	+0.4	(+3.8)	+0.4	(+1.2)	▲0.3	+0.5	+0.4	+2.6	▲3.9	73.1	
06/09	▲1.4	(+0.9)	+0.3	(+1.2)	▲8.1	▲1.5	+0.1	▲3.4	+0.8	63.9	
06/10	▲1.6	(▲1.6)	▲0.9	(+0.6)	▲5.0	▲1.1	+0.0	▲10.6	▲1.3	59.1	
06/11	+2.0	(+0.9)	+1.3	(+1.8)	+6.1	+0.7	▲0.3	+15.6	+0.5	59.4	
06/12	+0.9	(+1.1)	+0.2	(+2.0)	+2.5	+0.5	▲0.1	+2.6	+1.0	62.1	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアは前月比+0.2%と市場予想を上回った

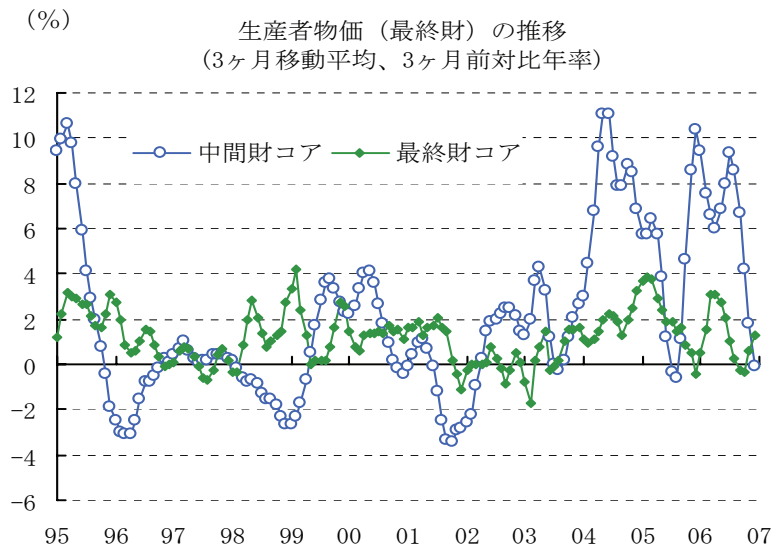
2006年12月の生産者物価(最終財)は、前月比+0.9%と2ヵ月連続の上昇となり、市場予想の同+0.5%を上回った。エネルギー価格が同+2.5%と鈍化したものの、食料品が同+1.7%とプラス幅が拡大した。

変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、同+0.2%と市場予想の同+0.1%を上回ったものの、緩やかな上昇にとどまっている。

生産者段階の川中から川下への価格転嫁率低下

今後の変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)のモメンタムに関して3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で見ると、2006年5、6、7月と中間財(コア)が上昇したため、中間財(コア)に6ヵ月程度遅れて影響を受ける最終財(コア)は2007年1月にかけて上昇が予想される。ただし、競争の激化や生産性の向上等を背景に2004年以降、川中である中間財から川下である最終財への波及は限定的なものにとどまっておられ、最終財(コア)は緩やかな上昇が見込まれる。

2007年2月以降の最終財コアは、中間財(コア)が2006年8月から12月にかけて低下していることから、2007年7月まで鈍化傾向を辿ると見込まれる。



**資本財、消費財コア
ともに上昇ペース鈍
化**

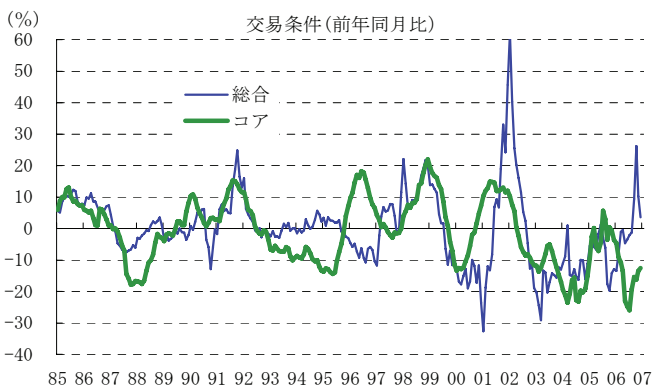
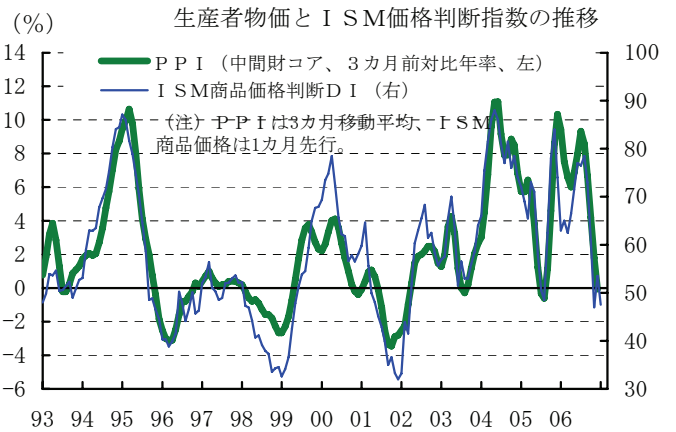
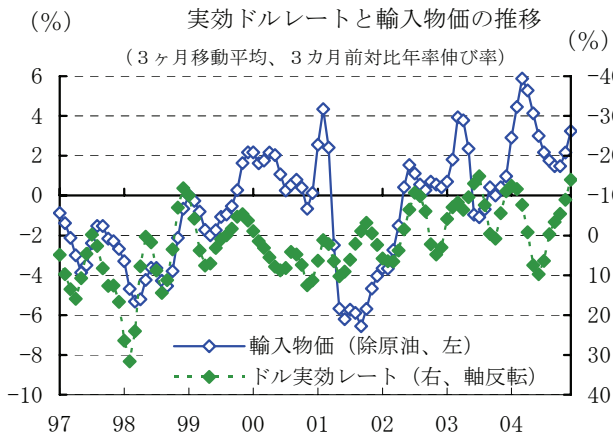
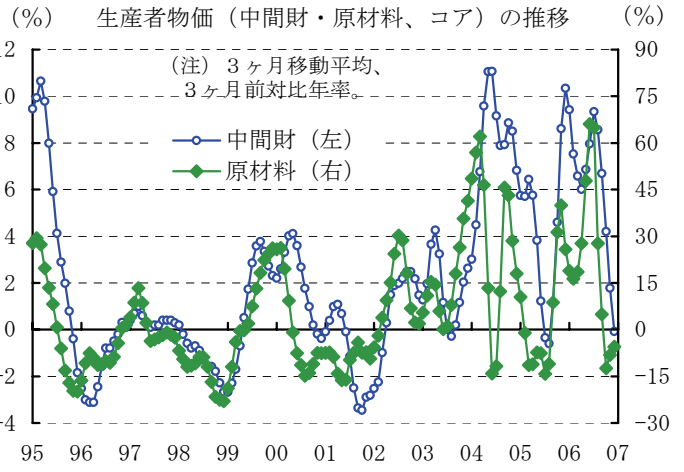
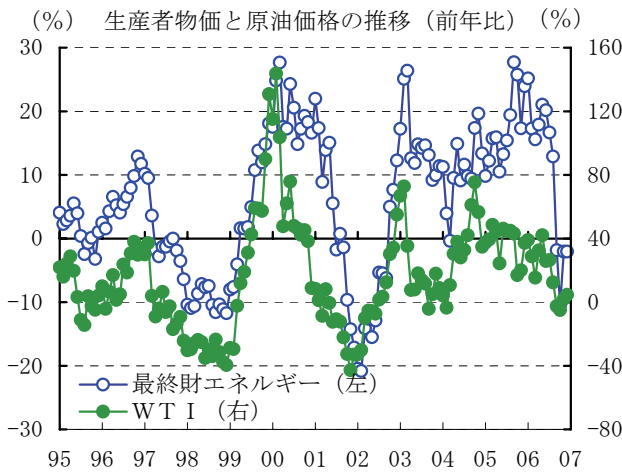
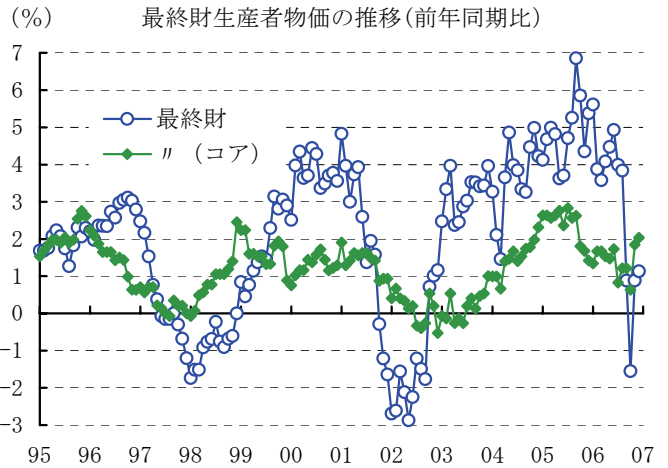
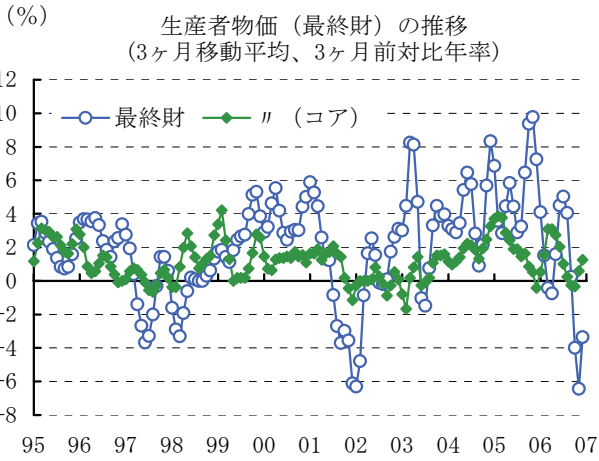
最終財でのカテゴリ一別の動向をみると、食品関連ではフルーツ、生鮮・加工野菜、加工若鶏の上昇によって食品価格は前月比+1.7%（前月同+0.1%）となった。

エネルギーは前月比+2.5%（同+6.1%）とプラス幅が縮小した。家庭用電力が同+0.1%（同▲0.2%）とプラスに転じた一方、天然ガスが同+0.7%（同+5.9%）、ガソリンが同+7.1%（同+17.9%）、ヒーティングオイルが同+4.0%（同+7.7%）とプラス幅を縮小した。

消費財（エネルギー・食料品を除く）は前月比+0.1%（前月+1.1%）と鈍化した。こことも上昇と下落を繰り返している乗用車価格が12月に同▲0.2%（11月同+2.2%、10月同▲2.3%、9月同+2.8%、8月同▲2.6%、7月同▲0.8%、6月同+0.9%）と再び下落した。

資本財も前月比+0.2%（同+1.4%）とプラス幅を縮小した。コンピューターが下落したことに加えて、軽トラックが前月の高い伸びの反動等によって同+0.7%（11月同+13.7%、10月同▲9.7%、9月同+3.5%、8月同▲3.4%、7月同▲3.1%）と大幅に鈍化した。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。